

＜先週の説教から＞

『ルカ ⑩ — 若い時のイエス様の姿』

武田真治牧師

申命記 8:1～10 ルカ福音書 2:41～52

新約聖書にはイエス様のご生涯を記した4つの『福音書』がありますが、イエス様が伝道へと向かわれる前の若い頃の様子を記録しているのは『ルカ福音書』だけであり、しかも、たった一つの出来事だけなのです。それが今日の箇所です。

「両親（＝ヨセフとマリア）は過越祭には毎年エルサレムへ旅をした」というのは、エルサレム神殿で行われる祭りに参列するための“巡礼”のことです。そして「イエスが十二歳になったときも、都に上った。祭りが終わって帰路についたとき、少年イエスはエルサレムに残っておられた」と続いています。この12歳の意味について、今でもそうですが、ユダヤ人の男児は13歳になると《バル・ミツバ（＝戒めの子という意味）》という儀式を受けます。この儀式以降、自分の行動の責任を自分で負うことになり、律法及び種々の戒めを守る義務を負うようになります。私たちで言えば《成人式》です。その儀式を受けるために、前年の12歳からヘブライ語と律法を本格的に学び始めるのでした（＝現在でも13歳の誕生日が来た次のシナゴグの礼拝で、一人で旧約聖書を原語で朗読することを試験のように求められます）。イエス様が神殿に残られたのは、この後にありますように「神殿の境内で学者たちの真ん中に座り、話しを聞いたり質問したり」とバル・ミツバのための勉強をしておられたと考えられます。ただしその学ぶ様子を周りで「聞いている人は皆、イエスの賢い受け答え（＝原文では「理解力と答え」）に驚いていた」のでした。既に、その持っておられる知恵と力は抜きん出しておられたということを示しているのだと言い得ます。

この神殿に残っていたイエス様を捜して、三日間かけて神殿までたどり着いた両親は「なぜこんなことをしたのか」と問い詰めます。それに対してイエス様は「どうして私を捜したのですか。私が自分の父の家にいるのは当たり前だということを知らなかったのですか」と答えています。これはかなり厳しい返答です。特に、ヨセフさんのことを“父”と呼ば

ず、神様のことを『自分の父』と言われているのですから。両親はとても驚き、かつ戸惑ったことでしょう。この答えから分かることは、13歳になられる前にイエス様は、親からの“自立”をしておられ、かつ両親にもそのことを知ってもらいたい意図があったということでしょう。このまま神殿での生活に入られてもおかしくない言葉とも言い得ます。

ところがイエス様は「一緒に下って行き、ナザレに帰り、両親に仕えてお暮しになった。」のでした。私たちの感覚で言えば、親から離れて自活することが“自立”と考えていますが、そうではなく本当の自立は“自らの意志で仕える”ことが出来ることであると教えられているように思います。

イエス様は30歳になるまで、両親と家族に、そして地域や社会の中でご自分の意志で「仕えて」暮らされたのでした。この意味は深いと思いますが、いかがでしょうか？

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 8月21日(水) 20:00
II. 8月22日(木) 10:30

聖書研究：ローマ書(夜)・ハイデルベルク(朝)

祈祷主題：ハンナの会を覚えて

担当者：(水) 鹿野 (木) 森本

祈りに覚える人：大竹さん 大野さん

*ハンナの会 8月20日(火) 休会

【教勢報告】

主日礼拝 男17 女43 計60

祈祷会 I. 休会 II. 休会

日曜学校 幼稚科 小中科 計

【次週主日礼拝】 8月25日(日)

聖書：テサロニケの信徒への手紙 一

1章 1-10節

説教：「主に倣う者として」

柳田 洋夫 牧師 (聖学院大学)

讃美歌：206(1)、32、351、55、402、

【次週当番表】 37(1)

司式：金刺長老 奏楽：村上 礼拝：茨木長老

献金：鈴木 須田 受付：金刺 坂田

会堂準備：大野 勝村 黒澤 鶴巻

西尾

看板：中村 週報：飯島 お花：お休み

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会

礼拝後：・お茶の会

・伝道/礼拝/牧会/教育/社会 各委員会

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

2024年 8月 18日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>